

[ライブ・サーティー]

Live30

<http://www.omichikai.or.jp>

VOL.

228

2018年
夏号



CLOSE UP

新・ボバース記念病院

OMICHI ACADEMY

脳・神経疾患勉強会

第27回 日本有病者歯科医療学会総会学術大会

KCJL2018

OMICHI SCRAMBLE

森之宮病院診療技術部田中部長が大阪府診療放射線技師会の会長に就任しました

第6回城東区民公開講座に講師として参加しました

課題解決ワークショップ2期トレーナーの紹介

INFORMATION

医療・介護・福祉関係者向けのイベント「こもればカフェ」を開催しています
森之宮病院で地域医療連携ネットワークシステムの運用を開始しました



最優秀賞
「Live30」
雑誌「Live30」が、
読者の声で、
最も優秀な雑誌と
選ばれました。
日本出版協会

2018年10月、ボバース記念病院はオンリーワンの
新しい病院に生まれ変わります

新・ボバース記念病院



ボバース記念病院
院長
荒井 洋

脳性まひ等、小児期発症の運動障がいがある方を乳児期から老年期まで継続して支えるオンリーワンの病院。それが新しいボバース記念病院です。

2018年10月、乳児から小学生までを診療してきた森之宮病院の小児部門を、中学生以上を診療してきたボバース記念病院に統合し、生涯を通じて切れ目のない診療ができるようになります。

対象となる疾患は、脳性まひ、小児期の急性脳症・脳梗塞・脳出血・頭部外傷の後遺症、運動障がいに伴う遺伝性疾患等です。また、整形外科の拡充に伴い、発育性股関節障がい（先天性股関節脱臼）、先天性内反足、ペルテス病等、小児期に発症する運動器疾患の診療にもより力を入れていきます。一部の神経難病のリハビリテーションにも取り組んでいく予定です。

青年・成人期の診療

特に受診して頂きたいのが、青年期以降の方々です。高校卒業後は身体を動かす機会が減り、地域でのリハビリテーションも受けられなくなって、しばしば生活機能が落ちてしまいます。

また、腰痛・関節痛や頸髄症によるしびれ等の二次障がいでも苦しむ方も多くおられます。

私達は、小児期に頑張つて歩けた方々が成人後には車椅子生活になっている現状を目の当たりにし、継続的な医療の必要性を痛感しました。一旦落ちた機能も、適切な治療やリハビリテーションを行えば戻ってくる可能性があります。生活の困難さを年齢のせいと考えずに、健康で長生きできる方法をともに探しましょう。

幼児期・学童期の診療

一方で、小児期の治療やリハビリテーションも、成人後の生活をイメージして行わなければ無駄になってしまいます。小児部門と成人部門との統合によって患者さんやご家族により具体的な将来像を示せるようになり、効率的な治療につなげられると考えています。

脳性まひ等の疾患は、ほとんどが様々な障がいを併せ持ちます。小児期には、運動だけでなく認知やコミュニケーションの発達、心理、学習能力等を総合的に評価し、病院で治療するだけでなく、学校や保育園にアドバイスを提供します。歩行練習の方法、机や椅子の設定、トイレ介助の方法等、普段から適切な介入をすることで、より機能を高めることができます。

チーム医療

脳性まひのような複雑な疾患の診療には、何よりもチーム医療が求められます。私達は以前から、入院患者さん一人ひとりに時間をかけて多職種が集まるカンファレンスを行ってきました。障がい児・者医療の豊富な経験を持つ医師、療法士、看護師、心理士、保育士、栄養士、医療ソーシャルワーカーが連携し、様々な視点から患者さん・ご家族の生活を支えます。

医師は小児神経科医、整形外科医、内科医で構成されます。各科が緊密に意見を交換し、患者さんご家族と相談しながら必要な医療を決めます。歯科では、これまでの経験を生かし、必要に応じて麻酔下での安全・安楽な歯科治療を行います。



医師、療法士、看護等の担当者が集まり患者さんと一緒に診療

看護

病棟看護師は、疾患の管理をするだけでなく、患者さんご家族が安楽に過ごせる入院環境を作ります。入院中は生活そのものがリハビリテーションです。療法士と協力し、移動、食事、更衣、トイレ等、様々な場面で安全を確保しながら自分でできる部分を増やしていくように関わります。また、乳児には育児指導、幼児には楽しい保育、学童には学習サポートと各年齢に応じた支援を提供します。

外来看護師は患者さんに長く関わる中で成長や加齢に伴う変化を捉え、ご家族の悩みを伺って、医師とともに解決方法を考えます。小さな事でも遠慮なくご相談下さい。

リハビリテーション

私達は、50年以上前に神経リハビリテーションに変革を起こしたボバース夫妻の考え方を基礎とし、発展する神経科学の知見を取り入れながら、豊富な臨床経験を通じて常に新しいリハビリテーションを模索してきました。単に一つひとつの機能を高めるだけでなく、患者さんご家族の希望に合わせた目標を設定し、長期的プランを提供します。

乳児期から老年期まで、ライフステージに応じて家庭・社会生活を継続的に支えます。学校や職場、地域に具体

的なアドバイスを伝え、生活場面まで途切れることがない包括的なサポートを行います。



同じフロアに広いPT室、OT室、ST室(個室6つを含む)を配置

病棟改修と入院診療

森之宮病院と同様、各階に広く明るいリハビリテーション室を設けました。移動時間の短縮、転倒等の事故防止につながるだけでなく、職種間の連携がスムーズになります。

従来の回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟は廃止し、全て障害者病棟(98床)としました。今までは急性疾患が主体の一般病棟で診療していたため十分な入院期間が取れませんでした。今後は必要に応じて十分なリハビリテーションが提供できます。

2階は乳児から小学生まで、3階は中学生から成人までと病棟の対象年齢を分けました。年代に応じた対応ができるだけでなく、同年代の方々の交流が進みます。2階の一部は乳幼児の

親御さんが安心して過ごせるような病室とし、新設のエレベーターで1階の専用リハビリテーション室を使うようにしました。敏感で感染等に弱い乳児でも安心して治療が受けられます。

看護ステーションはオープンカウンターにして目が届きやすくし、会話や相談が気軽にできるようになりました。集まって楽しく食事ができるデイルームや、2階には小児がゴロゴロ遊べる部屋も設けました。



オープンカウンターになった看護ステーション。お気軽にお声がけ下さい

外来診療

診療科は小児科、整形外科、神経内科、リハビリテーション科、歯科のみとなります。歯科以外は全て予約制の専門外来で、一般診療・救急診療は行いません。

外来リハビリテーション室は本館に集約し、個室を増やして様々な病状の方に対応できるようにします。介護保険による通所リハビリテーションは森之宮病院に移り、医療保険のリハビリテーションのみが対象となります。

活動報告

脳・神経疾患勉強会

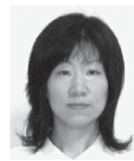


ボバース記念病院
院長
荒井 洋

日程：平成30年3月3日
場所：神戸芸術センター

3年前からここにこハウス医療福祉センターの先生方が中心となり、米国コンビア大学の先生方をお招きして脳性麻痺の治療に関する勉強会を開催しています。今年は当法人も共催として参加し、世界的に著名なオーストラリアのIona Novak先生もお招きしました。当日は全国から100人以上の医師・療法士が参加され、最先端の研究に基づいた新しい治療システムについて学ぶことができました。翌日には同様の勉強会を横浜医療福祉センター・港南、千葉県千葉リハビリテーションセンター

の主催で横浜でも開催しました。ボバース記念病院が新しい脳性まひ治療センターとして生まれ変わるため、これからも世界中の研究者と交流を深め、最新の知識を得るよう努力を続けます。



ボバース記念病院
リハビリテーション部
理学療法科科长
中窪 美佐緒

ボバースアプローチに加え、有効性の高い他の治療も取り入れさらなる発展を

Iona Novak先生をお迎えした勉強会は大変有意義なものでした。Iona Novak先生は理学療法士としてキャリアを始められ、長年にわたる脳性麻痺児のリハビリテーションに携わり、現在では脳性麻痺の予防と治療の研究で世界的に活躍しておられます。先生の有名な論文で脳性麻痺に対する様々なアプローチの有効性を示されているものがあります。その中で私達の実践するボバースアプローチは、一般に、治療のエビデンスが研究成果として証明できていないという事実があります。客観的事実は真摯に受け止め、有効性の高い他の治療も取り入れて、発展していくべきだと認識しました。

10月に荒井院長指揮のもと始動する新生ボバース記念病院は、日本の脳性麻痺のリハビリテーションを牽

引(けんいん)する役割があり、職員全員が一つになって貢献したいと思っています。



ボバース記念病院
リハビリテーション部
理学療法科
ラトン 桃子

子どもが能動的に活動できる環境作りが重要

本勉強会では世界をリードする米国コンビア大学脳性麻痺センターの首脳陣を講師に迎え、小児脳性麻痺の最新の知見やマネジメントについてご講義を頂きました。今回、私は主にシドニー大学脳性麻痺共同研究所、研究主幹のIona Novak先生のご講演の通訳を務めるため本勉強会に参加しました。勉強会の中でも印象に残ったのは「child active(直訳は子どもの能動性)」という言葉です。子どもの身体機能及びADL機能の維持向上のためには、リハビリテーションの手法に関わらず、セラピストや周囲の人(家族、サポートする人)が子どもの能動性を最大限引き出すような関わりをしていくことが、子どもが能動的に活動したくなるような環境を作っていくことが重要であると終始強調して述べられていました。今回の勉強会で得た知識や経験を今後の臨床にも生かし、脳性麻痺児の治療についてさらに研鑽していく所存です。

発表報告

第27回日本有病者歯科医療学会総会学術大会



森之宮病院
歯科診療部部長
旭 吉直

重度肥満の自閉症患者の全身麻酔下歯科治療経験について発表
日程：平成30年3月24日
場所：東京タワーホール船越

3月24日に東京で開催された本大会に参加して、重度肥満の自閉症患者の全身麻酔下歯科治療経験について発表しました。重度の肥満は特に呼吸機能に悪影響を及ぼすので麻酔管理も難しくなります。対象の患者は体重130kgに達する男性で、歯科診療室への入室、静脈路確保だけでも大変でしたが、家族の協力を得て、安全を確認しながらステップを踏んで進めることで無事に全身麻酔下に歯科治療を行うことができました。この症例もそうですが、私達ができるだけ優しい麻酔にするためにラリンジアルマスクエアウェイという器具で術中の気道を確保しています。この器具は経口なので歯科治療が行いにくくなるため、使用している施設は珍しいようです。今回の口演発表の際にも麻酔法について幾つか質問があり、また、発表後の会場外でも使い方を説明しました。

本学会で印象に残ったのは、九州

歯科大学附属病院あんしん科の原野先生。「本当は凄い！笑気のちから」世界は笑気を活用し、新たな可能性を見出す」という講演です。笑気は環境への影響等が問題視されて医療に使われなくなってきたいます。歯科業界でも、怖がりの人の治療の鎮静のために鼻マスクで使われ、私も以前は時々診療で利用していました。しかし、もともと麻酔作用が弱い上に歯の治療の時には口を開けるために吸入濃度が下がるので効果がないとの固定観念を持ち、最近ほとんど使っていませんでした。この講演で改めて笑気ガスの効果を見直し、学会後は、以前より沢山使用して、喜ばれています。

充実した経験をさせて頂くことができました。

迎え。平成30年4月12日、14日に大阪開港された近畿の血管治療に、ボリス記念病院が新しい脳梗塞の治療に、猿轡動脈を、生れ、交差した、治療の、研究、例、と、交流、の、演、で、最、を、知、得、ま、う、に、症、例、は、約、10、歳、代、女、性、A、D、L、は、自、立、さ、れ、て、い、た、方、で、他、院、心、臓、血、管、外、科、で、閉、塞、性、動、脈、硬、化、症、(右、総、腸、骨、動、脈、浅、大、腿、動、脈、完、全、閉、塞)、に、対、し、て、大、腿、動、脈、一、大、腿、動、脈、右、大、腿、一、膝、窩、動、脈、の、バ、イ、パ、ス、術、を、施、行、さ、れ、ま、し、た、が、バ、イ、パ、ス、が、閉、塞、し、右、足、趾、に、虚、血、に、よ、る、難、治、性、潰、瘍、を、認、め、歩、行、困、難、と、な、り、ま、し、た。病、状、が、悪、化、し、ま、し、た、が、再、手、術、困、難、と、の、こ、と、で、当、科、へ、紹、介、と、な、り、ま、し、た。

発表報告

KCJL2018



森之宮病院
心臓血管センター
循環器内科
山上 将央

集学的な治療により、難治症例を治療できたことを発表

日程：平成30年4月13日
場所：ナレッジキャピタル

近畿心臓血管治療ジョイントライブはライブデモンストレーションを中心にした研究会で、今年で第16回を

当院循環器内科部長の川崎大三先生は世界的な血管内治療のスペシャリストであり、当科は日本で有数の血管内治療の施設です。他院で治療困難となった重症例を積極的に受け入れており日本中から紹介があります。海外の施設からも紹介があります。当院心臓血管センターではハイブリッド治療(循環器内科と心臓血管外科の合同の治療)が可能ですので、心臓血管外科で血栓除去術、当科でバルーン拡張術+ステント留置術を施行し、血行再建に成功しました。その後、運動リハビリ、創傷ケアを行い、自立歩行で退院することができました。当科では、血行再建だけではなく、創傷管理や運動リハビリ

にも力を入れていきますので、集学的な治療により、難治症例を治療することができたことを発表しました。今回の経験を、日々の診療に生かしていきたいと考えています。

発表報告

第20回日本医療マネジメント学会学術総会



森之宮病院
事務部庶務課
奥田 陽子

多様化・複雑化するコミュニケーション課題について発表

日程：平成30年6月8日、9日
場所：ニトリ文化ホール、ロイトン札幌、ホテルさっぽろ芸文館

日本医療マネジメント学会は、医師から一般職員まで幅広い方々が集う場で、参加者は3000人を超える規模です。今年は「医師事務作業補助者のコミュニケーション研修の効果測定」多視点・構造化の導入例」としてポスターで発表しました。医師事務作業補助者の業務は多岐に



演題発表を行う山上医師

わたり関係者が多いため、コミュニケーションも複雑になります。そこで、多視点・構造化という概念を用いてコミュニケーションについて考える研修を実施し、その効果を測定しました。「看護師さんに新しい業務を頼まれたが勝手に受けられない。どうしたらいいか？」という例に沿って、グループワークを行いました。相談すべき相手を洗い出し、どういう順番で相談するかを話し合いました。自分の視野が狭いかに狭いか、思い込みで決めてしまっているか等を実感できるようになっています。臨床研修に関わっておられる他院の医師からは「研修医にぜひ受けてほしい。医学部の教育に入れたほうがいい」とまで言って頂きました。



他院の医師からの質問に答える様子

森之宮病院

森之宮病院診療技術部田中部長が 大阪府診療放射線技師会の会長に就任しました

5月27日(日)に開催された第6回公益社団法人大阪府診療放射線技師会定時会員総会で、森之宮病院診療技術部の田中部長が、大阪府診療放射線技師会の会長に就任しました。大阪府診療放射線技師会は診療放射線学及び診療放射線技術の向上を図るとともに、診療放射線技師の職業倫理の高揚を図り、もって府民の保健福祉に寄与することを目的に活動しています。田中部長は就任にあたり、「会員の皆様方から多く教わり吸収して知識及び技術の向上と魅力ある運営に努め、さらに人間味のある技師会をめざして、府民の皆様



定時会員総会で抱負を述べる田中部長

に貢献していきたい」と抱負を語りました。

サンローズ
オオサカ

大阪市消防局より 消防功績顕賞を受賞しました

サンローズオオサカでは、平成25年度より毎年2回職員を対象に応急手当講習会を開催しています。柴田課員とともに応急手当普及員として、心肺蘇生法(胸骨圧迫とAEDの操作)について指導しています。

昨年度までに計10回、延べ109名の職員が講習に参加しました。長年、普及に携わったことにより、3月5日(月)の消防の日に大阪市消防局から消防功績顕賞を頂きました。今後、も全ての職員に身に付くよう、普及に努めていきたいと思ひます。



応急手当普及員の森課員(左)と柴田課員(右)

(サンローズオオサカ介護サ
ビス課 森亮司)

地域包括ケアシステム レポート

第6回城東区民公開講座に講師として参加しました

今年で第6回目を迎える城東区民公開講座が2月24日に開催されました。城東区民公開講座は、城東区民を対象とした年に1回行われる講座で、一昨年度より城東区地域包括支援センターと共催しています。私は大阪府理学療法士会の推進部市民公開講座準備委員長を務め、城東区地域の代表として活動しており、今回講師として参加しました。

今年度は、「健康寿命を延ばす血管力セミナー」と題して、早期発見に役立つ脳卒中や心不全、閉塞性動脈硬化症等の初期症状やその対策方法について講演し、質問紙表による血管力チェックや、血管機

能を維持するための体操を皆さんと一緒に行いました。40歳から90歳代の幅広い年代層で計103名が参加され、最後は多くの質問を頂きました。

今年も城東区民の方々の健康づくりや障がい予防のために、リハビリテーションに関する知識をお伝えできる区民公開講座を考えています。たくさんのご参加お待ちしております。

(森之宮病院リハビリテーション部理学療法科主任 森正志)



課題解決ワークショップ2期トレーナーの紹介

2013年に法人の1期トレーナーとして10名の職員が認定されてから約5年が経ちます。その間、様々な場面で実力を発揮し、昨年は第67回日本病院学会にシンポジストとして参加、その活躍は日経ヘルスケアでも書籍になって多くの方に認められています。大道会では今後も職員の教育に力を入れるべく、新たなトレーナーの育成に着手し、1年間の研修を経た10名の職員が2期トレーナーとして今年4月に認定されました。新しく導入される研修も計画されており、次世代の職員育成に貢献することが期待されています。(本部管理部人事課課長 上野恒夫)



2期トレーナーの意気込み

(写真:上段左から)

森之宮病院看護部 6階
西病棟科長
松岡真実トレーナー
「解決策が導き出せる
方法を分かりやすくお
伝えます」

グリーンライフ療養サ
ビス部 療養三科主任
岡田浩志トレーナー
「課題解決スキルをさ
らに深め、貢献できる
よう頑張ります」

森之宮病院リハビリテー
ション部 作業療法科主任
三浦正樹トレーナー
「学んだことを生かし
て貢献できるよう頑張
ります」

森之宮病院リハビリテー
ション部 作業療法科主任
神尾昭宏トレーナー
「大道会の課題を解決
できるセラピストをめ
ざします」

ボバース記念病院看護
部3階病棟主任
宮里佳奈トレーナー
「不安はありますが自分
にできることを一生懸
命頑張ります」

(写真:下段左から)

森之宮病院リハビリテー
ション部 理学療法科主任
稲葉朗子トレーナー
「少しでも皆様のお役
に立てるようにサポー
トします」

森之宮病院診療技術部
栄養サービス科主任
高間正恵トレーナー
「少しでも分かりやす
い説明を心がけたいと
思います」

森之宮病院診療部 医療
社会事業課主任
佐藤美香トレーナー
「頂いた貴重な学びと
出会いに感謝して、励
みます」

ボバース記念病院事務
部 フロントサービス課主任
大西愛美トレーナー
「受講者が前向きな気
持ちになれるトレー
ナーをめざします」

森之宮病院リハビリテー
ション部 作業療法科主任
三浦教一トレーナー
「トレーナーとして、
忘己利他の精神で邁進
していきます」



森之宮病院 登録医 紹介

26



いわもと内科クリニック

岩本 直己 医師

大阪市城東区中浜3-14-15
内科、循環器科、呼吸器科

岩本院長は、高校卒業後、慶應大学法学部で学んでおられましたが、幼少期の夢だった医師をめざすために兵庫医科大学医学部へ再入学されたそうです。平成9年、兵庫医科大学卒業後、兵庫医科大学病院胸部外科に入局し、高度先進医療に携わられ、その後、大隈病院循環器内科ではカテーテル治療、ペースメーカー植え込み等の専門医療に加え、一般内科、救急医療を担い、平成20年からは千里リハビリテーション病院にて脳疾患及びリハビリテーション、平成24年から在宅医療に従事されました。その幅広い経験を地域医療に生かしたいと幼少期から馴染みのあった城東区中浜で、平成28年6月にいわもと内科クリニックを開院されました。

「患者さんがここに来たら、いつでもとにかく診てもらえるというような診療所をめざしています。できる限り患者さんの話をしっかり聞いて、丁寧な説明、適切な専門機関につなげていくことを心がけています。症状が良くなったと喜んで頂いた時、新規の患者さんが継続して通院して下さるようになった時は嬉しいです。今後も地域の方々が住み続けられるように、在宅医療にも積極的に取り組んでいきたいです」と優しい笑顔で話される岩本院長。休日は読書、野球観戦を楽しまれています。車椅子の患者さんも来院しやすいように、玄関のスロープや院内も配慮されており、岩本院長の温かいお人柄を感じました。

(森之宮病院診療部地域医療連携室 藤野友理香)

医療・介護・福祉関係者向けのイベント「こもればカフェ」を開催しています

大道会では、4月より「こもればカフェ」を開催しています。地域の医療・介護・福祉に関わる様々な施設・職種が集い、顔を合わせることで情報共有し、スムーズに連携を図ることをめざしています。ミニレクチャーや施設紹介等の後、当法人のスタッフも交えグループに分かれ、まさに「カフェで友達がおしゃべりする」ようにお菓子や飲み物を頂きます。そのひと時が、日頃気になっている事や知りたい事等、何でも気軽に話せる情報交換の場になれば幸いです。

月1回(第3土曜日の午後)の開催予定です。ホームページやチラシ等で案内していますので皆さんお誘い合わせの上、是非ご参加下さい。スタッフ一同、お待ちしております。

(森之宮病院診療技術部薬剤科副部長 奥村栄子)



第1回開催時の風景。それぞれのグループで話したことを発表し、参加者で共有しました

森之宮病院で地域医療連携ネットワークシステムの運用を開始しました

森之宮病院では、インターネットを利用した地域医療連携ネットワークシステム「もりりんネット」の運用を4月から開始しました。患者さんの同意のもと、セキュリティで守られている回線で森之宮病院と地域の医療機関を結び、森之宮病院の診療に関する情報を地域の医療機関で閲覧できるシステムです。本システムを通じて地域医療機関との連携強化に努め、切れ目のない継続した医療を患者さんが受けられるように進めていきます。(本部医療情報部情報システム課 前田金美)



城東税務署長より感謝状を頂きました

申告納税の推進に努め、税務行政の運営に貢献したことが称えられ感謝状を頂きました。今後も適正な申告及び納税に努めてまいります。

ご寄付・ご寄贈を頂きました

吉村昌一様(生野区)、海老池義明様(都島区)よりご寄付・ご寄贈を頂きました。ありがとうございます。有意義に活用させていただきます。

編集後記

毎日暑い日が続いていますが、いかがお過ごしですか？私は夏が好きなので、毎日汗を拭き拭きアクティブに過ごしています。もちろん水分補給は忘れません。まだまだ暑さの厳しい日々が続きますので、ゆく夏を惜しみつつお元気にお過ごし下さい。(森之宮病院看護部外来主任 吉田千絵)

Live30【ライブ・サーター】
2018年夏号
vol.228

編集発行人／社会医療法人大道会
〒536-0023 大阪市城東区東中浜1-5-1
TEL. 06(6962)9621
FAX. 06(6963)2233

●本法人の経営理念

1. 社会から信頼される病院・施設づくり
2. 安定した経営基盤の確立
3. 職員の福祉向上と人材育成

●職員行動モットー

親切丁寧に(受診者・お客様・ご利用者)
待たさない／よく説明する／連携する

■社会医療法人大道会

社会医療法人大道会本部

☎06(6962)9621

森之宮病院

☎06(6969)0111

ボバース記念病院

☎06(6962)3131

森之宮クリニック(PET 画像診断センター)

☎06(6981)9600

帝国ホテルクリニック(人間ドック)

☎06(6881)4000

大道クリニック(人工透析)

☎06(6961)5151

介護老人保健施設グリーンライフ

☎06(6965)0666

訪問看護ステーションおおみち

☎06(6967)1123

訪問看護ステーション東成おおみち

☎06(6977)8680

ケアプランセンター城東おおみち

☎06(6964)5285

ケアプランセンター東成おおみち

☎06(4259)5311

レンタルケアおおみち

☎06(6967)6250

■社会福祉法人山手学園

特別養護老人ホームサンローズオオサカ

☎06(6974)7388

東成山手学園(保育園)

☎06(6974)7377